

きぼうのいえニュースレター

きぼうのいえニュースレター 発刊にあたって

きぼうのいえが開設されて3年と10ヶ月が経ちました。

当初、「きぼうのいえ」ならぬ「むぼうのいえ」とよばれたにもかかわれず、皆様のご支援により、ここまで運営を続けてくることができました。ほんとうにありがとうございます。

ニュースレターをもっと早くお出しして、日常の出来事などをみなさまにお知らせしなければと思っていましたが、日々の仕事に追われて、今日の今日になってしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。

きぼうのいえ後援会を窓口にして、「きぼうのいえ」を中心にして起こるさまざまな出来事を今後は定期的にみなさまにお知らせしていきたいと思っております。どうぞご期待ください。

施設長 山本雅基

NPO法人認証となりました！

2001年4月に発足以来、任意団体として活動しておりました「きぼうのいえ」の運営主体、「山谷・すみだリバーサイド支援機構」が2006年4月18日に東京都からの認証を受け、NPO法人となりました。NPO法人は正式には「特定非営利活動法人」といい、非営利に広く社会貢献活動を行うことを旨として認証を受ける法制度です。

この認証により、今後「山谷・すみだリバーサイド支援機構」は法人として契約関係の主体になることができるほか、法律的にさまざまな点で、法的効力をもつことが出来るようになり、また社会的な活動として評価されるため、認知度が高くなります。

会計報告

平成17年1月～12月

きぼうのいえ後援会にお寄せいただいた、個人会費・法人会費・月约会費・寄付金の詳細は以下の通りです。後援会運営の事務費を差し引いた金額を、きぼうのいえ運営費にあてさせていただきました。皆様のお支えを心より感謝申し上げます。

今後ともご支援いただければ幸いです。

科目	件数	金額 (円)
個人会員	225	1,366,000
法人会員	18	360,000
月约会員	19	342,000
寄付	240	3,013,958
合計	-	5,081,958

尚、後援会費・寄付を頂いた方のご芳名を次号より会報に掲載させていただくことになりました。匿名をご希望の場合には振替用紙の通信欄に、その旨ご記入下さい。

寄付(物品)報告

ホームページの「ウィッシュリスト」などをもとに、たくさんのお問い合わせ、物品のご寄付もいただいております。毎月平均10～20件程度の物品のご寄付がよせられています。ありがとうございます。

ウィッシュリストの一部

お米
 レジ袋・ゴミ袋
 コピー用紙 (A4)
 介護用品 など

きぼうのいえの本ができました！

「東京のドヤ街 山谷でホスピスはじめました。
—きぼうのいえの無謀な試み—

(山本雅基・著/実業之日本社 ¥1680-)

施設長山本が、きぼうのいえの立ち上げから現在に至るまで3年半の日常をまとめたものです。ぜひご覧下さい！

スタッフから

「きぼうのいえの不思議」

山本美恵

◎不思議1

きぼうのいえでは「怒りも喜びも伝染性」です。その感染力は強力で、一人が怒り出すと、たちまちきぼうのいえは「怒りのいえ」に変身してしまいます。

いつも笑いの絶えない「きぼうのいえ」に保つ、怒りを笑顔に換える、これが私の一番大切にしている仕事です。

◎不思議2

きぼうのいえでは、ときどき不思議な霊現象が起こります。例えば、①亡くなられた方のベッドの下に水溜りができたり、②亡くなられた方が他の入居者の部屋に現れたり、③スタッフの枕もとに現れて「腹減った」（生前の口癖）といたり、④スタッフが寝ている布団をぼんぼんとたたいたり（生前、その方が寝るときに「ぼんぼんぼん」と言いながら布団を軽く叩くととても嬉しそうな笑顔を見せてくれたので、いつもそのようにしていたのです）…。霊現象という怖そうにみえますが、それが少しも怖くないのです。親しい人たちの霊は、「あら、いらっしゃい、ゆっくりして行ってね」というくらいです。

◎不思議3

なぜか天国へ召されるときは二人ずつ。一人で逝くのが寂しいのでしょうか。

◎不思議4

肝臓癌の方が来られると次も肝臓癌、その次も、その次も肝臓癌。すい臓癌の方が来られると次もすい臓癌。食道癌も肺癌も口腔内の癌も数人ずつ続きました。なぜか同じ疾患が続くのです???

◎不思議5

きぼうのいえに不信感をもっていたNさん。「人間、利益が上がらない仕事をするはずがな

い。必ず裏があるはずだ」と。だんだんNさんのお部屋へ行く足が重くなり、話をするのも気が重い。そんなとき黒猫のクララが事務所から脱走するようになったのです。行き先はなぜかいつもNさんのお部屋。クララを追いかけて毎日いやでもNさんのお部屋へいくことになり、そのおかげで気まずかったNさんとも話しができるようになりました。するとなぜかクララの脱走癖もおさまったのです。

◎不思議6

きぼうのいえの最も不思議な現象は、お金の危機と人（スタッフ）不足の危機のときに顕著に現れます。お金の困って困って、土壇場になるとなぜか必要な分だけのお金が入る、スタッフでいい人が来ないかなと困っていると土壇場でこれ以上適任はないと思える素晴らしい人が現れるのです。

きぼうのいえの不思議、いかがでしたでしょう。全部ご紹介できないのが残念です。



「かみさまのコーディネート」

山田義浩

「かみさま。どうか僕にお坊さんとして、宗教者としてあるべき姿をお示し下さい。学びをお与え下さい。」

四年前、福井の田舎で、満天の星空に向かって、僕はひとり、祈りました。

僕はとっても怠け者で、お坊さんとなつてずいぶん経ったその時でさえ、少しでも楽しよう、楽しよう、と、だらだらと生きていました。そしてまた恵まれすぎた環境がそれを許してくれていたのです。

肉、魚、美味しい、制限する人ぞなし。ふつうに恋をして、痴話喧嘩して、それでもいざ本堂に向いて「人生の達人」みたいな顔してなんだかやってれば、周りの人も自分でさえ、「なんかおかしいな〜」とおもいながらも『お互いの責任』が無事終わる。『責任の意味』はあいまいに……。お互い触れずに……。

その時はもちろん「楽なこと」を選び堪能してしまう僕なのですが、それは同時に「苦しみ」でもありました。身も心もぶくぶくと肥り、

「お坊さんとしてこれでいいのか・・・」なんて思っても結局しんどいから「楽」をやっぱり選ぶ悪循環で、常に「罪悪感」と「倦怠感」に悩まされ続けていました。

そんなある日、家庭環境が悪くて家を飛び出し、工場の屋根裏部屋に住み、定職につかず、アルバイトしながら生活している年下の友人とのこんな会話がありました。

「俺、こんな『ゴミ蟲』みたいな生き方してるくらいなら、死んだほうがましですよ」

「世の中には『生きてくても生きれない』人もいるのに、そんなこといったらあかんわ」

「・・・ギコウさんにはわからんでしょうね～」
僕はショックでした。そう、僕はこんなに怠けながら生きていながらもかかわらず、心のどこかでお坊さんだから「人生の達人」みたいな錯覚に陥っていたのです。しかしそれは僕が「キレイ事をいっても生きていける」環境にいただけなのでした。

「このままではいけない」
僕のなかに抑えきれないうねりのような、熱い、マグマ（・・・は言いすぎ）のような欲求が湧いてきました。

そうして冒頭の祈りを、あの星空に向かって願ったのでした。

それからの僕の生活は、あれよあれよというまに「かみさまにコーディネートされて」いったとしか言い様のない展開をみせました。絶対抜け出られないであろうと思ってたしがらみから簡単に「解放」されて、上京することになり、いままで疑問だったこと、学びたかった事、これから「いち宗教者」として必要であろう、経験と学びが、いとも自然に「集まってくる」感じだったのでした。

そんななかでもかみさまのとくに「粹なはからい」がきぼうのいえとのご縁でした。ここにいる入居者さんたちも「いろんな事情」があって、きれいごとだけでは生きてこられなかったであろう日々を送り、そうやって流れつかれた「終の棲家」です。僕があの時、友人との会話から受けたショックをまさに学ぶ場所を与えられたのです。と同時に、僕とあんまり変わらないその「社会性」のなさ！（笑）

「俺はこうして失敗したんだよ～」
なんて聞かされると、まるで自分のことのような・・・

僕が経験してきたことを生かせる場所もあり、本当に学びを頂くために最高にびったりな場所を「コーディネート」して下さったんだと、

そう感じています。ついでにいうと、そろそろバイトしなきゃと思っていたら極自然に、知り合いから紹介されたその「タイミングの良さ」にはまっこと驚かされます！

かみさまはおられると僕は確信をしています。かみさまのはたらきのない場所など、どこにもないとはおもいますが、このきぼうのいえはかみさまのはたらきがとってもよくみえる場所です。僕が僕の立場で、また、僕のようなおろかものが「かみさまのはたらき」などと言わせて頂くのは、大変おこがましく、非難もされるやもしれませんが、あらゆるかたちでこの場所にかかわってくださる人々、有縁無縁の人々が共に「普遍的な」このはたらきを共有しあえたらな～と思うばかりです。

はたらきを感じられたことのない方がいらっしゃったら、どうかこのきぼうのいえをつうじて顕される「かみさまのはからい」にそっと耳を、目を、傾けてみて下さい。きっと大きな確率で「何か」を感じとられることとおもいます。この場所に呼ばれ、学び、ともに生きられることを日々、喜んでいます。 合掌



「ひらかれた祈りの部屋」

下条裕章

2003年の秋、入居者とスタッフのため、また世界に和解と平和が与えられることを願うすべての人々のため、きぼうのいえに小さな祈りの部屋・聖家族礼拝堂がひらかれました。爾来、沈黙のうちにひとりで過ごす人、また数人で慰めあいあるいは語りあうために集う人々、はたまた笑顔とよろこびを分かち合う集まりなど、さまざまにその場所が用いられています。その小さな礼拝堂で、2006年4月まで毎月一度夕刻に希望者が集まって献げる祈りの司式をさせていただきました。その後は堀之内豊師がチャプレンとしてご奉仕くださっています。ありがとうございます。

短い聖書の言葉を集まった人々の中でともに聴きあうようなふれあいは、わたしに多くの素敵な発見を与えてくれました。言葉ではなく、各人それぞれが歩み係わってきた出来事や経験を通して、励まされ、笑い、また時には反省し、心に痛みを感じるような場が生み出されるのでしょ。生命そのものの力が素直に表現される瞬間に出会ったように感じました。

月々の礼拝という場面ばかりではなく、さまざまな価値観、宗教、宗派・教派を問わずそれぞれの魂に添うように営まれる葬儀や供養などをおして、また何よりも毎日の寝起き、衣食、生活を通して、人と人との関わりのなかに潜んでいる大切ななにかがふと輝き出す場面があると思うのです。そんな一瞬の大切さに目を注ぐことができる場であり続けてほしいと願っています。

すべての人の、一人ひとりの生命=lifeが大切にされることが、きぼうのいえの出発点また目標でもあるのだと思います。そんな願いと祈りが、近くにある人にも遠くにある人にも、また立場を超えて、きぼうのいえにかかわるひとすべての心に宿りますようお願い続けています。

小さな礼拝堂に美しく揮毫され掲げられている言葉をここに引用しておきます。

きぼうのいえ 祈りの部屋 聖家族礼拝堂

山谷・すみだリバーサイド支援機構は、一人ひとりに神から与えられた命がなによりも大切にされることを願って、多くの人々の善意と熱意によってその産声を上げました。そして、真実の和解と平和をともに願い求めます。これがわたしたちの希望です。

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに、愛を
分裂のあるところに、調和を
傷つけあうところに、赦しを
誤りのあるところに、真実を
疑いのあるところに、信頼を
絶望のあるところに、希望を
暗闇に光を、

そして悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

聖なる父よ、どうかわたしに
慰められるよりも、慰めることを
理解されるよりも、理解することを
愛されるよりも、愛することを先ず求め
させてください。

わたしたちは、与えることによって与えられ、
自分自身を忘れることによって本当の自分を見だし、
赦すことによって赦され、
そして死によって、永遠の命に目覚める
のですから。

この希望をわたしたちが失うことがないように祈りの場所を備えます。そして、ここに生活するすべての人々、この働きのために祈り、支援をしてくださる人々、また開設にあたりご尽力くださった日本聖公会ナザレ修女会の働きを覚えて、聖家族礼拝堂と名づけます。

全能の神が、ここに入るすべての人々を祝福し、その祈りと黙想を助け導いてくださいますように。そしてわたしたちを永遠の命の喜びで満たしてくださいますように。

救主降生2003年10月4日
アシジのフランシスの日

山谷・すみだリバーサイド支援機構

編集後記

きぼうのいえに私が介護スタッフとしてやってきてから早1年が経とうとしています。お正月の大神楽(獅子舞)、4月の隅田川公園でのお花見、7月の隅田川花火大会などの行事を入居者の皆さんと楽しみ、移りゆく季節を感じながら、一日一日を大切に生きていることを実感する毎日です。きぼうのいえは、ホスピスなのになぜかにぎやかで笑いが絶えず、そんな雰囲気をお伝えしたくてこのニュースレターを編集しました。読みづらいたころも多々あるかと思いますがどうぞご了承下さい。後援会事務局まで、ニュースレターへの投稿・ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

(スタッフ・江口麻子)